

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価結果

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	みやき町立中原小学校
1 前年度 評価結果の概要	各領域の重点目標に向かって全職員一丸となって1年間取り組んできた。保護者や地域の方の教育活動に対する理解と協力により、児童が楽しく通える活気あふれる学校となってきている。学習、生活の面において児童に良い影響を与えていることが児童や保護者の意識調査からも確認することができた。一昨年度から活用力向上事業の県の指定を受け、算数科の授業改善にむけて研究に取り組んでおり、自ら学ぶ態度や対話活動で友達と共に学ぶ意欲が高まってきた。しかし、各項目における取り組みで一定の成果は見られたものの、課題も明らかになっている。この課題を全職員や保護者、地域の方と共有しながら、今年度はさらに効果的な指導の在り方を探り、実践していきたい。特に、心の教育と合わせて、児童の学力向上に向けた取り組みをさらに推進していく。
2 学校教育目標	「心豊かに たくましく 賢い風の子」の育成 ～ メリハリをつけて、大活躍!! 風の子中原小 ～
3 本年度の重点目標	① 豊かな人間性を育む。(感性豊かな子ども) ② 健康・体力づくりを推進する。(健康でたくましい子ども) ③ 確かな学力を育む。(自ら学び考える子ども)

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目			最終評価		
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上	・同学年で共通したマイプランを立てることにより、統一した指導が行えるようにする。 ・年に3回校内研修を行い、板書や発問等全体学びの中で教師の役割について授業改善を行う。	A	・マイプランの成果指標を達成できた教師は100%だった。発問を工夫したり、児童の思考過程を分かりやすく板書したりすることによって、児童の関心意欲を高め、学習内容を理解させるように、学年ごとに授業改善に取り組んだ。
	○主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善～「教える」「考えさせる」「習熟させる」のメリハリのきいた授業～	○主体的な学びの姿を引き出す授業づくりを行い、全員が研究授業に取り組む。	・低・中・高・なかよしの4学年部会で、全体授業研究会を実施し、全体学びでの教師の役割に視点を置き、授業づくりの研修を深める。 ・研究の内容や方法について共通理解を図り、講師の先生の指導を仰ぎながら、教師のファシリテーターとしての意識を高めるための手立てを探る。	A	・それぞれが研究授業に向けて、本校の研究主題や自らの課題を意識しながら授業づくりに取り組むことで、お互いの学びが深まった。 ・各部会の実践を見て研究会で意見交換をしたことで、これからさらに継続して取り組む必要があることを共通理解し、次年度へとつなげることができた。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○Q-Uを2回実施し、1回目より2回目の学級生活満足度が高くなるようにする。 ○Q-Uの結果を学級づくりに活用し、「友達に思いやりの気持ちをもって、勉強したり進んだりする」と答えた児童80%以上	・自他を認め、尊重する態度を育てるために、年に数回「光るところみつけ」を実施する。「光るところみつけ」やあいさつ運動、行事での児童のがんばりや活躍を紹介する。 ・各学級で道徳の時間を使い、人権に関する授業を行う。	A	・「光るところみつけ」を年3回実施し、児童のがんばりや活躍を放送で紹介することができた。 ・学校生活アンケートの「友達に思いやりの気持ちをもって、勉強したり進んだりする」と答えた児童は、95%で他者を思いやる気持ちが育ってきた。 ・人権に関する授業は、県作成の資料を用いて、学年に応じた内容の学習を全てのクラスで実施することができた。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていないと回答した教員85%以上	・月末に心のアンケートを実施する。また、休み時間の様子や日記等でも情報を把握し、いじめの早期発見に努める。 ・事案が発生した際、迅速にいじめ防止対策委員会を立ち上げ、いじめを受けた児童への支援の方策を検討する。また、全職員で共通理解を図り、サポート体制をつくる。	A	・月1回行う「心のアンケート」や休み時間等の様子から、児童の内面把握に努めることができた。 ・週1回の「生徒指導連絡会」にて、職員間で児童の問題行動等についての共通理解を図り、いじめなどの早期発見に努めることができた。 ・いじめ防止等について組織的対応ができていないと回答した教員の割合は100%だった。
	◎自信をもち、自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の充実	○将来の夢や目標に向かって頑張ったり、勉強や生活の仕方を工夫したりしたと答える児童が85%以上	・具体的な目標を立てさせ、見通しをもたせて、学習や行事等に取り組ませる。振り返りを必ず行い、教師が声かけをすることで、児童に自分自身の頑張りが成長に気付かせ、次の学習への意欲をもたせる。	A	・各学年で行事等の目標を立て、振り返りさせ、キャリアパスポートに蓄積することで、自分の成長を振り返ることができた。学習や行事で、自分で決めた目標に向かって頑張ったと答える児童が91.7%と目標を上回った。 ・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高めることができた。
●健康・体づくり	⑤「健康に食事は大切である」と考える児童の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童98%以上 ・朝食を毎日食べる児童97%以上	・給食の時間を中心に、各教科等との関連を図りながら、食に関する指導を実施する。 ・長期休業前の生活リズムに関する指導や、食育強化月間での生活リズムチェックを充実させる。 ・便り等を活用し、保護者への啓発を行う。	B	・給食時間の放送や生活朝会等で食に関する指導を継続して行った。 ・「健康に食事は大切である」と答えた児童は100%であり、食に対する健康意識は高まっている。朝食を欠食している児童が減るよう、今後もお便り等で家庭への啓発を続ける。
	○体力向上の具体的実践	○県のスポーツチャレンジの参加学級、参加種目を増やす。	・各学級2種目以上の参加を呼びかけ、9割以上の学級で達成できるようにする。 ・学校全体で26種目以上に挑戦するようにする。	B	・感染症予防の観点から、参加学級は伸びなかった。正式な記録を付けることのできた学級は全体で25学級となり、目標を下回ったが、縄跳び等に進んで取り組む児童は増えた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を設定し、退勤時刻までに優先順位を考慮して効率的に業務を行い、短縮意識を高める。 ・放課後の時間に、打合せ等を行わない「集中タイム」を設け、時間外勤務時間の短縮を図り、メリハリをつけた働き方を奨励する。	B	・特別な事情がない限り、毎週金曜日の定時退勤時刻までに退勤することができた。時間外勤務の上限遵守に向けた取組について工夫改善を継続していきたい。
	○組織的な学校運営と教職員の連携促進	○時間を意識して校務に取り組んだ教職員80%以上達成。	・教職員の連携を促進し、各部会等の分掌業務について、効率化可能な校務を時短で実施できるようにする。 ・校務シェアボードの掲示板を活用して、各担当からの連絡を確認することとし、毎週固定の連絡会は設定しない。	A	・時間を意識して校務に取り組んだ教職員は96%であった。メリハリのあり働き方を目指し、各会議時間の効率化を図ることができた。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			最終評価		
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	
	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果
○安全教育	○危機回避能力の育成と、安全指導の徹底	○防犯ブザー所持率90%以上達成 ○児童の交通事故0件達成	○毎月、防犯ブザーの所持、整備の啓発週間を設定し、児童、保護者の防犯意識を高める。 ○交通安全指導、登下校指導を通して、児童の交通安全への意識を高める。	B	・防犯ブザー点検、避難訓練、登下校指導や定期的に地区児童会を実施し、全校放送などで交通安全、防犯に関する指導を行い、交通安全、防犯に対する意識向上に努めることができた。
○生徒指導	○凡事徹底	○「気持ちのよいあいさつをする」「くつやスリッパをきちんと並べる」についてのめあてを達成した児童80%以上	・毎月第2週目の朝の登校時間に、運営委員会を中心に「全校あいさつ運動」を実施し、挨拶の奨励と児童の意識の向上を図る。 ・靴箱やトイレ入口に児童の意識が向く掲示をしたり、きちんと並んでいる箇所について称賛したりすることで、児童に対しての意識付けを図る。	A	・運営委員会を中心に「あいさつ運動」を行い、全校に気持ちのよい挨拶を呼び掛けたことで、挨拶への意識の向上を図ることができた。 ・生活朝会や各学級で物を大切にすることを指導を行うなど、靴やスリッパをきちんと並べることへの意識の向上を図ることができた。 ・「進んであいさつができていく」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、90.6%であった。
○学力向上	○学習規律の徹底	○「学習のきまり」「休み時間の過ごし方」について「守れている」と肯定的な回答をした児童80%以上達成。	・「学習のきまり」について掲示をし、全校で共通理解をした上で、児童に呼びかけ徹底をはかる。 ・「休み時間の過ごし方」を全校で共通理解し、落ち着いた態度で学習に向かわせる。	A	・立腰の取り組み方を見直し、学年で共通理解を図りながら進めたことでより定着が進み、落ち着いた学習に向かうことができた。 ・「学習のきまり」「休み時間の過ごし方」について「守れている」と肯定的な回答をした児童が90%を超え、目標が達成された。しかし、日によっては落ち着いた時もあるので、全校で声かけを継続していくとさらに定着していくと感じる。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

6 総合評価・次年度への展望	各領域の重点目標に向かって、全職員一丸となって1年間取り組んだ。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のために、計画通りに実施できない行事等が多かったが、保護者や地域の方の教育活動に対する理解と協力により、可能な範囲内で行事や学習活動を実施することができた。また、各項目において、中間評価実施後に、目標達成に向けて具体的の方策を立てることができたため、一定の成果が見られた。 ・「学力の向上」の取組については、全職員で学力向上対策評価シートを活用しながら、マイプランを充実させ学年で統一した指導を行うことができた。また、各学年で「立腰」の取り組み方を全校で見直し共通理解を図ることで、落ち着いた学習に向かう雰囲気づくりができていく。今後も学力向上に向けた取組を充実させていきたい。 ・「健康・体づくり(望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成)」については課題があるため、PTAや保護者と連携を取りながら、さらに取組を推進していきたい。
----------------	---